

Camp in Campus 運営メンバー募集案内

公認団体



フェーズフリーで
豊かな避難所生活を
考える研究室

【避難所後進国 日本】が抱える課題

災害
関連
死

昨年1月に発災した能登半島地震、死者は7日現在、572人に上りました。そのうち、災害関連死と判断された方は344人。実に60%を超える方が、直接的な被害を免れた後に亡くなっています。

私たちは避難所先進国であるイタリアを参考に、豊かな避難所生活を検討し、実装することで、日本中に広く波及させることを目指します。

活動内容

01 Camp in Campusの企画、開催、運営

災害がいつ起きるのか、私たちには分かりません。その為、実証実験を年四回、それぞれの季節で開催します。皆さんには、開催に向けた企画や参加者の募集、当日の運営を担当していただきます。



01

02 ひだまり広場で生活する二泊三日

研究室で用意したテントを用いて、現代福祉学部棟と社会学部棟に挟まれた「ひだまり広場」という芝生広場を活用し、実証実験を行います。勿論、シャワー・トイレは使えます。



02

03 ストレス値や睡眠の質の計測

腕に専用のスマートウォッチを装着し、様々な生活環境を想定して生体データを観測します。それらをもとに、客観的事実の側面からも豊かな避難所生活の実現を目指します。



03

04 実装に向けた外部団体との協力

湖山医療福祉グループ、アキレス(株)や関西ペイントといった民間団体と協働した年四回の実証実験。行政との連携や相模原市長による視察を継続的に行い、避難所開設の実現に向けて活動しています。



04